

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	共博(医歯薬)甲第11号	氏名	黒濱 大和
学位審査委員	主査 永山 雄二 副査 高村 昇 副査 永田 康浩		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、放射線誘発甲状腺発がん過程のバイオマーカーを同定するため、放射線照射ラット甲状腺において、経時的な分子発現変化を網羅的に解析したもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 上記目的のため、放射線照射後のラット甲状腺の病理学的評価、RNA マイクロアレイによる網羅的遺伝子発現解析、バイオマーカー候補選択と droplet PCR による定量解析を経時的におこなったもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、病理学的変化に先行して多くの分子の発現量変化が同定され、そこにはDNA損傷応答や細胞増殖、細胞接着に関与する分子群が含まれていた。特に <i>cdkn1a</i> (<i>cyclin dependent kinase inhibitor 1A</i>) 遺伝子発現量は、放射線被ばくを同定できる有用なマーカーであることが示唆された。今後の放射線発がん研究への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は放射線影響研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			